
勇者と死神

pumpkin

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者と死神

【著者名】

pumpkin

N7316M

【あらすじ】

勇者は駆ける
人々のため、仲間のため、世界のため
死神は笑う
自分のため、自分のため、自分の・・・ため
?

ありふれた勇者と可笑しな死神（前書き）

残酷といつほゞではあつませんが　（不必要とあらばタグ消します）
チョイグロです

ありふれた勇者と可笑しな死神

もう少しだ。

もう少しで全てが変わる！

仲間達の顔も喜色に満ちていた。

そう

もう少しでこの国は狂った軍人どもからの独裁から抜け出せるのだ！

俺たちの手で！

「観念しやがれ！ 勇者様のお通りだあ！」

剛健で力強い声と共に俺の肩を叩くのは仲間の一人、ディン。
俺と目が合うと頬もしく笑いかけてきたのは、仲間のなかでも随一
の美貌の青年

アラン。

他の五人の仲間も俺を見て同時に頷く。

俺たちは完璧に調和しているのを感じた。

立ち向かってくる愚民を一掃しつつ、先に続く長い階段を減速もせ
ずに上り続け
る。

国民から搾り取った金で作った調度品を、無慈悲な大臣達を、狡猾
な悪女達を俺

たちによって消され、この国は今まさに生まれ変わろうとしている
のだ。

そしてついに眼前に大きな扉が現われた。

俺は躊躇う事無く扉を開け放つ！！

そこには……

アイツが、いた。

「ヘルロー！ナイスてうーミーてうー、ナアんてナア。不法侵入者一言うコトバジヤ

ネえかあ。随分とマア暴れタねえ。人様の領地をここまで荒スたあ

正義ツーのは

一体ナンなのか直々ニイ聞きたイヨ。な、勇者様様様つと」

相変わらず人を小馬鹿にしたような調子こいた金属音のよつた声と、怯えるよう

に長いロッドを抱き締めている態度が不釣り合いの死神。

天窓の豪奢なステンドグラスと黒一色の味気ない服を纏いながらも、赤や青のペ

イントを施したの道化の仮面をかぶつた奴は、場違いなほど対照的で、なぜか俺

の胸が痛んだ。

「おやあまア二つやあホントつに久いイイイいいねエエエ勇者サ
あま。大ツキ
イクなつタモンだあナア？救われエタあ命ヲ無駄にスルたア、何ともモッタイない
ネエ。ソンなに死にたいのカアあい？」

一対ハ。

俺たちを田の前にしても奴の声は震えるどひりか機嫌良さげに高笑いをする。6

年前俺の村を一夜にして消した時と全く変わらない狂氣。

そしてこの威圧感。

おどけた言葉とは裏腹にそちら辺の騎士達とは比べものにならない殺氣を奴から

感じる。

愛する人を眼前で殺されても、ここまで黒い氣を出せる人はまづいないだろ？。

「・・・・アレス」

仲間の誰かが呟いた。

……まづい

アレスの迫力に皆が押され始めている。

誰も武器を構え切れちゃいけない。

「俺たちがここにきた理由はわかっているだろ？アレス！？俺たちはお前を倒し、

国民を解放させにきた！人々の命を最も食らったお前は、万死に値する！」

俺の宣言に我に返つた面々がそれぞれの得物を構えたのを横目で確認しながら、
俺は聖剣を掲げた。

その時

「ねえ・・・・アレス」

緊迫した雰囲気のなか、どこからともなくか細い少女の声がした気がした。

「……ンだア、トト。俺にナンかケチ付けンノ?心配する口とナン
てア
リヤシねえよ。」

級友に話し掛けるように、アレスがあらぬ方向をむいて呟いた。

「・・・アレス・・・。もう・・・アレスに殺し、なんてして
ほしくないで
す・・・・・・どうしてもダメ、なんですか?」

少女が泣きだしそうな声色で言った。

誰だ、どこで喋っている?

俺は振り返つて仲間達を見たが、皆首を傾げて見返してくるばかりだ。

「・・・何言つテンド。・・・無理に決まつてンダロウ?俺ハ、ア
レスだ。だから

・・・アレスが殺すンだ。お前ハ・・・オ前は何もしてナイ。」

「・・・アレス・・・私は「サア、始めよツツカアアア勇者あ様
!アレスを、俺
ヲ壊しテ裂いて地に付け殺シテ吊し、晒して笑つて碎いて潰して豚
ノ餌にしタイ
んだ口オ?」

少女の声を書き消すようにアレスが叫ぶ。

全てを振り切り、何かを庇おうとする、そんな声だった。

アレスが両手を掲げる。

少女の声は、もうどこからも聞こえない。

「どうシタ？早く殺しにコイよ。行っちゃうよ？」アレスたん突っ込
んジャウよ？」

「・・・・・」

アランが俺に呼び掛ける。

「本当にアレが黒幕・・なんです・・・か？」

俺は答えて詰まる。

だがすぐに我に返り、キッとアランを睨む。

「何言つてんだ！あいつに俺の妹も、お前の両親も、俺たちの田
の前で殺された
のを忘れたのか！俺たちは奴に復讐すると誓い、ここまでやつてき
たんだろ！」

だが俺の言葉に、彼は首を振った。

「エッジ。私は、絶対に自己満足で人を殺したくないのです。どん
なに血塗られ
た人でも、脅され、操られただけなら、それを操っていた黒幕
こそ私たちの
敵。そうでしょう？」

「・・・・アラン」

全員が戸惑いを隠せない瞳で互いを見つめる。

しかし、それは死神に背を向けるといつ、最悪の結果をもたらした。

「あくまで私たちは救世主です。どんな悪であってもわたじいうぐ
あああきいあ
あ!?」

瞬きをした瞬間、アランの首が、消し飛んだ。

思考が停止する

なぜ? という言葉が頭を旋回しつづけるのを止めたのは、金属音の
よつな耳障り
な哄笑。

「オおオおオオ・・・優しいお兄サン? 哀れな僕らを助けてくれる
のカイ?」

誇りを踏み潰された絶望の表情のまま固まつた彼の美しい顔と立ち
代わりに、ア
レスの白い仮面が俺たちに迫り鎌を掲げる! -

「散らばれ! 奴を囮み背を狙え! 焦るな慌てるな!」

「サあさア皆様! 素敵なショーグの始まりダ! 誰が何ヲ何の為一ビツ
ヤツテ捨て裂キ
殺し守り助けルカ! そこのお嬢さん、分かるかい! ? なあナアなア
なあアああ!」

「リーリア！－！」

魔導師リーリアの真っ正面に奴の鎌が迫る。

「ひつ・・・・・」

後衛の彼女は硬直することしかできない。
だが、これ以上の犠牲者など出ない。
俺が出さない！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7316m/>

勇者と死神

2010年10月9日04時26分発行